

2部

フィールド フィールド
現場から現場へ

私の国家試験受験体験記

OB MESSAGE

通信教育部社会福祉学科卒業生

齋藤 佳徳

民間企業から福祉業界へ

父の介護と看取りを機に、私はそれまで勤めていた民間企業を退職し、福祉業界に身を投じました。ヘルパー2級を取得し、近所の障害者施設のガイドヘルパーとして働き始めました。そこで知的障害や自閉症など様々な方と接する中で、非言語コミュニケーションの取り方や、信頼関係の作り方など、もっと専門的な知識や技術があれば質の高いサービスを提供できるのではないかという想いから、通信教育部への入学と社会福祉士の国家資格取得を目指しました。

国家試験1回目の失敗

最初の試験は2点足りず、目標にしていた現役合格は果たせませんでした。そういった意味では皆さまの参考にならないかと思います。勉強方法は人それぞれですし、100人いれば100通りありますので、あくまでその一例として捉えていただければと思います。

1年目に「日本ソーシャルワーク教育学校連盟^(注)」(以下「ソ教連^(注)」)の模擬試験を受けましたが、1問あたりにかけられる時間が思いの外少なく、まだ半分も解いていないのに残り時間が無くなったという苦い経験をしました。得点率はなんと43%で、共通科目は学内56人中50位という散々な結果でした。そしてその時に点数が取れなかった科目が、そのまま本試験でも取れておらず、苦手科目にきちんと取り組まなかった結果だと思っています。

そこで2回目はそのことを反省し、苦手科目から積極的に取り組みました。

私の勉強方法

私の場合はまず過去問を解いて、関連した部分を参考書で確認する方法をとりました。参考書には中央法規の『ワークブック』を使用している方が多いようですが、ソ教連^(注)のWeb講座とそのテキストという方もいれば、インターネットの『赤マル福祉』一本という方もいます。

ちなみに私は福祉教育カレッジの『社会福祉士の合格教科書』を使用しました。1冊で完結していて、絵や図表も多く自分にとってわかりやすかったからです。本を3冊に切り分けて、通勤時にも持ちやすいよう工夫しました。その他、メディックメディアの『社会福祉士国家試験のためのレビューブック』を辞書のように活用しました。索引が充実しており、用語をよく調べました。また、過去問題集もいろいろな出版社から出ていますが、わかりにくい問題を2～3問選び、それぞれの解説を比較して一番理解しやすいものを選びました。

勉強期間が結局2年に及んだこともあります。長丁場になると中だるみも出てきますし、本当にこれでいいのかと自信が無くなることがよくあります。そんな時は学友にメールやLINEをして、愚痴をこぼしたり不安を打ち明けたりしました。結局、試験の前日まで「結果を憂えることなく、諦めずにコツコツ続けること」が合言葉になりました。今回の試験でも大変恥ずかしいのですが、私はある科目が1点しか取れませんでした。言わば首の皮一枚繋がったわけですが、不安の中でコツコツ続けてきたうちの一つが踏みとどまらせてくれたと思っています。

気分が乗らない時は石井亮一の妻石井筆子の生涯をネットで検索したり、留岡幸助についての映画「大地の詩」の予告編をYouTubeで見たり

しました。いずれもとても感動するもので、福祉への道を強く印象づけられました。

私の試験勉強の特徴は模擬試験の会場試験にこだわり、時間配分や自分のやり方を掴んだことだと思います。また、お勧めはできませんが、私は見落としがちな2問選択の問題にまず丸印を付けた後、得意科目から解き始めるという方法をとりました。最初に問題数を減らしたかったことと、気持ちが乗っていきやすいやり方にしました。そして「東京アカデミー」、「ソ教連^(注)」、「中央法規」など模試の数をこなしたことは結果的に本番の緊張と不安を和らげ、自分自身の後ろ盾になってくれました。模擬試験の問題はそのまま予想問題にもなっていますので、間違えたところは特に解説を読んで参考書で確認し、直前まで持ち歩くようにしました。

大学での学びとこれから

今の世界を取り巻く環境は、在学中に学んだ社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）とは逆の方向に向かおうとしています。私たちの考え方は、今後ひょっとしたら少数意見になってしまって、経済という大きな波に飲み込まれかねません。しかし、だからこそ私たちはその答えにこだわりを持つべきだと思うし、一方でその答えにも寛容さを持たなければならないと思います。矛盾したそれぞれの思いを抱きかかえながら、何らかの方向性を打ち出していかなければなりません。自己決定と権利擁護、自己決定と社会性、理念と組織など、実践場面では様々なジレンマが生じます。大学での学びを骨子としながら、一つひとつの相談に向き合い、そして向かい合うのではなく同じ方向を見られるように、これからも研鑽を重ね、精進していきたいと思います。

最後に、いろいろご指導いただいた教員の皆さま、本当に有難うございました。ある先生からのレポート講評には大変励まされ、教科書に貼って

お守りのようにしていました。また、親身にご対応いただいた職員の方、大変お世話になりました。そして卒業してからも繋がってしてくれた学友の方々、本当に有難うございました。心より感謝いたします。

(注)：2017年4／1より、日本社会福祉士養成校協会は日本精神保健福祉士養成校協会、日本社会福祉教育学校連盟と合併し「日本ソーシャルワーク教育学校連盟」(略称：ソ教連)となっております。

卒業生アンケートより(1)

2017年3月卒業生アンケートの自由記述について抜粋して掲載しました(p. 18、30、50にも掲載)。今後の学習の励みと参考になれば幸いです。今号は主に社会福祉学科の方からです。次号以降で福祉心理学科の方からの回答を含め、くわしく掲載します。通信教育部公式Twitterやfacebookにも掲載しています。

●本学で学んだ感想、在学生へのメッセージ

- ・スクーリングに参加したときは、ぜひ隣の方と会話をしてみてください。そしてお互いに支えあい、楽しみながら一緒に卒業を目指してください。知識や技術だけではなく、多くの「友人」も大学で得てください。
- ・入学時に届いた大量の教科書、本当に卒業出来るのか半信半疑でした。演習で様々な年代の方々とは知り合い、刺激を受け、親しくなり励ましや助言を受けながら乗り越えました。スクーリングでは個性的な教授や講師の方々から、様々なことを教えていただきました。
- ・自分のペースで学習できるという点で、通信教育部での学習を選択しました。しかしながら「自分のペース」というものは、聞こえがよいもので、一旦集中力が途切れると、学習モードに戻すことは、自分にとってなかなか困難なものでした。スクーリングでの先生の講義は、モチベーションを維持することに大変役立ちました(もちろん授業内容も)。
- ・卒業確定通知を見たとき、「自分でもできるんだ」とこの歳で自分に自信がつけました。
- ・実習・演習以外のスクーリングには勤務の都合で参加できませんでしたが、オンデマンドスクーリングの活用と独学中心の学習方法で卒業までたどりつけました。
- ・実習について、①実習前に準備するものが、ほぼ国家試験の科目・内容と一致していて、試験前に再読して良かった。②実習は現場であり失敗したことも多かったが実践の前の経験としてとても役に立った。
- ・演習科目は、初対面の学生同士で様々な課題を共に考え、共に答えを出すという特徴を持っていると思いますが、自分としては、この作業が苦手でもありましたが、やはり一番印象に残っています
- ・多くの教員が熱意をもって教えてくださることに正直おどろきました。ややもすると、福祉は現実と理想のギャップが大きい分野ですが、現場でも活躍されている教員に学べることで心が動かされることも度々ありました。